



風かおる  
人が輝き  
躍動するまち

# とままえ

# 2

No.642



## まちひと百景

### 今年の成人式参加者は18名

1月11日（日）に公民館で挙行された成人式は、対象者は31名と例年並みであったが、学業や仕事の都合等により13名が欠席、男性9名、女性9名の計18名の参加だった。

たくさんの来賓に見守られ、激励の言葉をかけられ、そして北海道日本ハムファイターズの鶴久森・陽両選手からのメッセージも受け、地元苫前町で多くの期待と元気をもらい、新成人の18名はまたそれぞれの地へ戻っていった。皆さんの活躍を期待したい。

- 暖房用燃料費等助成事業について… 2
- 平成27年成人式… 3
- 第40回平井杯争奪剣道大会ほか… 4
- 健康ばんざい… 5
- 国民健康保険ガイド… 6
- 国民年金… 7
- 学びの広場… 8
- 住まいる情報… 9～10
- 議会だよりNo.98… 11～15
- ちびっこギャラリー… 16

苫前町  
議会だより  
合併号

### まちの人口

人口／3,377人（男／1,602人：女／1,775人）  
世帯数／1,615世帯（1月31日現在）

URL：<http://www.town.tomamae.lg.jp>

## 暖房用燃料購入費等助成事業とは？

暖房用燃料の需要が増える厳冬期を迎えますが、灯油価格の高騰や電気料金の上昇などにより、経済的に厳しい状況が続いているため、その支援措置として苦前町に居住する低所得世帯に対し、暖房用燃料の購入費等の一部を助成する『暖房用燃料購入費等助成事業』を実施することとなりました。

## 対象となる世帯は？ 助成の内容は？

対象となる世帯は、平成27年1月1日現在において苦前町に住居登録されている世帯であって平成26年度の町民税が非課税の世帯で、町税、水道料、住宅使用料及び保険料などの滞納がない世帯が対象となります。ただし、生活保護世帯、施設等の入所者、長期不在者等は対象にはなりません。

昨年度は、所得による制限や高齢者世帯、障がい者世帯、ひとり親世帯などの条件を設けていましたが、今年度はこれらの制限や条件を無くしています。これらの世帯の方も町民税が非課税で、滞納がない世帯は助成

の対象となりますので、お間違えの無いよう注意願います。

助成の内容は「暖房用燃料として灯油を使用している場合」と「暖房用燃料として灯油以外のものを使用している場合」の2通りがあります。

①「暖房用燃料として灯油を使用している場合」

暖房用として灯油を使用している場合は、灯油100リットル分の購入費を助成します。

昨年度と同様に購入助成券を交付しますので、各自で左記の町内販売業者に給油を依頼していただくこととなります。

### ○販売業者

- ・ 有限会社伊藤石油店
- ・ 有限会社猪股石油店
- ・ 瀬川燃料店
- ・ 西村燃料店
- ・ 道央エア・ウォーター株式会社古丹別サービスセンター
- ・ JA 苦前町
- ・ 渡部工業株式会社

②「暖房用燃料として灯油以外のものを使用している場合」

暖房用燃料として灯油以外のもの（電気、石炭、ガス、まきなど）を使用しているときは、灯油100リットル分の購入費に相当する助成金を後日、指定された金融機関の口座に振り込みます。



# 暖房用燃料購入費等助成事業の申請を受け付けています！

申請受付期間は平成27年1月7日(水)～2月27日(金)まで

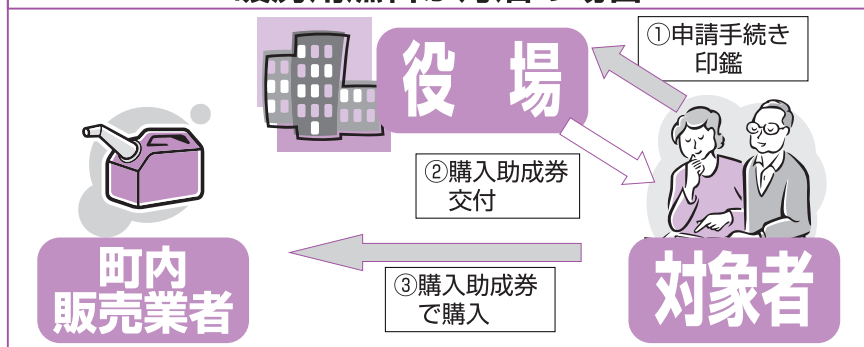
## 助成事業の手続き方法はどのようになっています？

暖房用燃料購入費等の助成を受けようとするときは、次のような手続きが必要となります。申請の受付期間が1月7日(水)から2月27日(金)までとなっておりますので、期日までに役場税務町民課もしくは古丹別支所で手続きをお願いします。

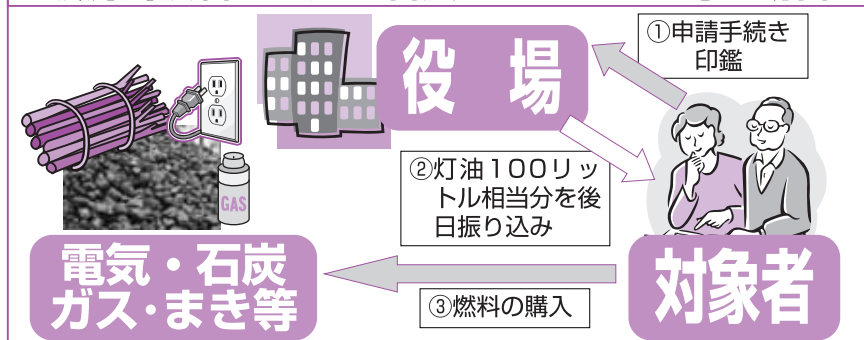
助成の対象となる燃料購入費は平成27年3月20日までに購入されたものに限りますので、ご注意ください。

なお、暖房用の燃料が電気、石炭、ガス、まきなどを利用して申請する際には、申請手続きの際に印鑑と預金通帳をご持参いただければ、灯油100リットル分と同額相当の金額を振り込みさせていただきます。

### 暖房用燃料が灯油の場合



### 暖房用燃料が電気・石炭・ガス・まき等の場合



夢に向かって、一歩ずつ前進を！ -新成人おめでとう-

# 平成27年 苫前町成人式



1月11日(日)午後1時から公民館において平成27年成人式が挙行された。

今年の対象は男女あわせて31名だったが、学業や仕事の都合で13名が欠席、男性9名、女性9名の計18名と少し寂しい成人式となった。

色とりどりの振り袖やスーツ、羽織・袴に身を包んだ新成人が受付を済ますと、久しぶりに再会した友人と笑顔で談笑する姿がや友人同士で写真撮影する姿が見られた。

式典では式辞で岡田裕幹教育委員長が「人生を歩み出す皆様に先輩として3つのことを伝える。1つは成人としての自覚をもつこと、2つはお金の貸し借りはせず、保証人にならないこと、3つは選挙権を行使すること。人生には山あり谷あり、決して腐ることなく自分の時を待って下さい」と新成人にエールを送った。

新成人を代表し、芳賀翔汰さんと岡田里菜さんが「厳しく育て、見守ってくれた両親をはじめ、多くの方々感謝します。

社会は非常に厳しい状況で幾多の困難にぶつかると思うがくじけず、この町で学び育んだ精神で自分を磨き、乗り越えていきたい」と宣誓し、岡田委員長

とガッチリ握手をした。

森利男町長は「皆さんは選挙権など様々な権利を与えられると同時に社会的責任も生じることとなる。これまで学校教育の中で集団生活に関するルールを学んだと思うが、これからは更に社会の構成員として責任ある行動をしていかなければならない。それぞれの夢に向かい大きく羽ばたき、着実に前進することを願いたい」と、星野恭司町議会議長も「皆さんは法律的にも国家の一員として権利と義務を与えられ、責任ある行動を期待される。これからますます努力して他人の痛みがわかる優しい気持ちをもった大人になって下さい」と祝辞を述べた。

成人意見発表では久保大気さんが「現在は専門学校に在学、調理師になるために勉強に励んでいるが、料理だけでなく知識・衛生面、人とのつながりなどをたくさん学んだ。4月からは東京で調理師となるため修行に行くが、立派になり人として尊敬、感謝される人間になります」と、田井水晶さんは「大学で英語と経済を中心に幅広い分野を学んでいる。昨年は研究発表や地元苫前町での実習などやりがいを感じた1年だったが、学生という立場に甘え、大人と

しての立ち振る舞いができていないと感じたため、マナーなどを一から勉強し、周りから信頼が厚い社会人を目指していきたい」と力強く発表した。

また、この成人式に当時新成人を受け持った学校の教諭も参加、教え子を目の前にお祝いのメッセージを伝えるとともに、本年より179市町村応援大使となった北海道日本ハムファイターズの鶴久森淳志選手からは「同じ北海道の仲間として地元を盛り上げていきましょう」、陽岱鋼選手からは「人生1回きりなので、人生を楽しんで。でもお酒には気をつけて」とDVDにより本町の新成人にエールが送られた。



## 平成26年最後の決戦！ ～第40回平井杯争奪剣道大会～



**(個人戦)**  
 ○小学校低学年の部 雅  
 ○小学校高学年の部 雅  
 ○中学校女子部 千尋  
 ○中学校男子部 涼雅  
**(団体戦)**  
 西軍 (5勝2敗2分け)

11月29日(土)にスポーツセンターで町剣道連盟(三上敏行会長)主催の第40回平井杯争奪剣道大会が開催、町内の少年団員が熱戦を繰り広げた。  
 小学校低学年から中学生までの4部門及び東西對抗戦が行われ、参加した剣士らは平成26年の最後となる大会で、気合いの声と見守る保護者の声援が響き渡り息詰まる攻防が繰り広げられていた。結果は次のとおり(第1位のみ掲載)

## 鏡もちづくりに奮闘！ ～苫前保育園でのお餅つき会～

お餅つきの後は、藤組の園児が鏡もちづくりを実施。園児服が粉まみれになるのも気にせず、真剣な面持ちでお餅を丸め

12月4日(木)苫前保育園(青木久美子園長)恒例のお餅つき会が行われ、全園児が体験した。  
 お餅つきは藤組と青組の園児が豆絞り姿になり、自分の背丈と同じくらいの杵をもって餅つきを行ったが、中にはふらつきや違う場所をついてしまいうちの「ヨイショ」という元気の良い大きなかけ声が園内に響いていた。



## お米についてより深い学習を ～学社融合事業稲作発表会～



12月4日(木)古丹別小学校(笹森文夫校長)で5年生10名による学社融合事業の稲作発表会が行われた。  
 この事業には、圃場の提供や各事業で講師を務めた花井秀昭さんをはじめ、農業普及センターや留萌地区農業共済組合中部支所職員なども参加し行われ、4月の初まきから田植え、生育調査、稲刈りの体験を元に、図書やインターネットを使い、より深い内容を調べグループに分かれ発表した。花井さんは「よくまとめられていてとてもよい発表だった。皆さんも体験してわかったように米作りにはたくさん苦労があるので、それらを考えながらお米を食べてほしい」と感想を述べた。

## 森の恵みでミニツリーとリースづくりを体験！ ～木工クラフト体験～

子どもたちも真剣にツリーづくりをしていたが、それ以上に保護者らは少しでもきれいなものを作ろうと子ども以上に真剣に取り組み姿が印象的だった。

12月7日(日)公民館で木工クラフト体験教室が行われ、幼児や小学生連れの親子12組31名が参加した。  
 子どもは松ぼっくりにモールやビーズで飾り付けを行うミニクリスマスツリーづくりを、保護者はヤマブドウのつるを丸くかたどったものに、ドングリやねこやなぎ、ドライフラワーなどで飾り付けをするリースづくりを体験した。



## リアルな内容でも大いに会場を沸かせる ～とままえ町民劇「地底へ」公演～



とままえ町民劇実行委員会(松岡満雄代表)による第7回目の公演となる「地底へ」が上演され、町内外より約300名が来場した。これまでは笑いもある内容で行われたが、今回は炭鉱事故を元に作られた笑いなしのシリアスな作品に挑戦した。演出に古丹別中学校教諭の佐瀬正幸さん、主演にとままえ温泉ふわつとに勤務する伊藤由希菜さんほか地元苫前町だけでなく、羽幌町や初山別村の地域おこし協力隊員も出演するなど約30名の出演で行われた。  
 会場からは緊迫感ある演技にすすり泣きや目頭を押さえる方も多くいたが、終演後のカーテンコールでは大勢の人が出演者に花束を渡し「よかつたよ」との声かけが多く寄せられ、出演者も笑顔で溢れていた。